

翌 2013 年 6 月 15 日午前 2 時ごろ, 同じマンションの玄関でメス 1 個体を再び確認し, 写真を撮影した(写真 2). 採集はしなかった. この日も日中から夜にかけて晴天であった. 写真をもとに前夜の個体と比較したところ, 前翅の模様のちがいがから, 別個体と考えられた.

本種は, 十分な広さのある砂浜とマツ林のある海岸に生息し(岡島・荒谷監修, 2012), 幼虫は砂地に生息するという(槐, 2013). 今回の確認地点から最も近い海浜は, 北東へ約 600m の場所であり, この海浜にはコウボウムギ, コウボウシバ, ハマヒルガオ, ハマボウフウなどからなる海浜植生が成立しているがマツ林は見あたらない. また, 南へ約 1200m の場所にも海浜があり, こちらには小規模ながらもクロマツ植林がみられる. 今回確認された 2 個体は街灯に誘引されたものと思われるため, 生息場所(発生場所)は特定できていない. 今後, 近隣の海浜等で観察する必要がある. 筆者はこのマンションに 2007 年より住んでいるが, シロスジコガネに気付いたのは今回がはじめてであった.

○参考文献

- 槐 真史 編, 2013. 日本の昆虫 1400 ②トンボ・コウチュウ・ハチ. 文一総合出版, 319pp.
兵庫県農政環境部環境創造局自然環境課, 2012. 兵庫県版レッドデータブック 2012(昆虫類). (財)ひょうご環境創造協会, 72pp.
岡島秀治・荒谷邦雄 監修, 2012. 日本産コガネムシ上科標準図鑑. 学研教育出版, 444pp.

(Yoshihiro SAWADA 兵庫県立大学大学院
緑環境景観マネジメント研究科)

タケウチトゲアワフキを佐用町昆虫館で撮影

向井 苑子

タケウチトゲアワフキは, シナノキ・オオバボダイジュ・ヘラノキを寄主とする特徴的な形態をもつアワフキムシです. 通常アワフキの幼虫は泡を作ってその中に隠れますが, トゲアワフキの仲間は, 泡の代わりに, 筒状の巣を作り, その中に住んでいます. 筆者は佐用町昆虫館で本種を撮影することができたので報告します.

2012 年 5 月 20 日, 2 個体撮影, 他に 3 個体目撃. 交尾中のものも.

2013 年 5 月 26 日, 1 個体撮影, 他に 2 個体目撃.

2013 年 6 月 23 日, 1 個体撮影, 他に 1 個体目撃.



写真 1 2012 年 5 月 20 日, 佐用町昆虫館



写真 2 2012 年 5 月 20 日, 佐用町昆虫館



写真 3 2013 年 5 月 26 日, 佐用町昆虫館

撮影地点は、昆虫館の寺谷川側にある植え込みです。タケウチトゲアワフキは草本植物の上に静止していました。ここにはシナノキも植栽されており、本種はここで発生しているものと思われます。

たった5ミリしかない黒い体の背中に鋭い角を持つこの虫をはじめて見たとき、カメムシ目の虫に目がない私はぞくぞくしました。なんというユニークな造形美でしょう。勇ましい戦士のように見えました。その形から、最初ツノゼミの仲間かと思ったのですが、帰宅して調べてみると、タケウチトゲアワフキというアワフキの種類だと分かりました。2013年5月、再び訪れた佐用昆虫館で、今年も見れるかなと植え込みを目を凝らして探しましたが、見つかるまでかなりの時間がかかりましたが、やっと一匹のそれを見つけた時は再会の喜びをかみしめました。角を触ってみると、かなりしっかりしており、もし突き刺さったら痛いかもしれません。この角は他の虫から身をまもるためのものなのか、それなら角は反対方向にないと武器にはならないはずと考えてしまいました。この虫がもっと大きかったら、必ずやカブトムシやクワガタにも負けないほどの人気者になることでしょう。

(Sonoko MUKAI 大阪府交野市)

初めて出会った、紋流れのヤマトシジミ

清水 典子・清水 萌花

珍しいと言われている紋流れのヤマトシジミを発見したので報告します。

○観察した日と場所

2013年4月18日, 最高気温:22.1℃, 最低気温:13.5℃, 湿度:57%, 風向:南西, 神戸市垂水区自宅庭のカタバミが自生しているエリア

観察した週は、月曜から4日連続で最高気温が20℃を越え、最低気温も10℃以上あり、昼間は動くとき少し汗ばむような陽気でした。その前週は最高気温が10℃台どまりで最低気温は5℃という日もあり、4月のわりには肌寒い日が続いていただけに、その翌週は待ちこがれた春の気温上昇でした。

4月15日から自宅庭ではアゲハ、モンシロチョウ、ベニシジミと次々に確認することができて気を良くしていたところ、18日にヤマトシジミらしき蝶がひらひら舞っているのであわてて庭に出ました。ヤマトシジミなら初蝶かも？ということで、興奮気味にそ〜と忍び足で近づくと、テラス下のカタバミ（写真1）で翅を休めているヤマトシジミを発見。時刻はお昼過ぎだったと記憶しています。その後もつられるように、今度は別のヤマトシジミが1匹、カタバミに舞い降りてきました。



小学5年生になる娘が日頃から蝶の飼育をしているので、とにかく2匹を捕獲することにしました。まずは写真撮影を試みようと2匹を比べると、紋に違いがあることにすぐ気が付きました。

1匹は黒い点の紋（写真2）なのに対し、もう1匹は前翅にまるで筆ペンで描いたような線状の紋があるのです。もしかしたら、別の種類の蝶かもしれないよと娘と一緒に図鑑をひたすら繰ってみました。同じような斑紋の蝶は見当たらず、謎はますます深まるばかり…。